

スマートキーでもキー閉じ込みが！

現在の車は、スマートキーが主流となっています。スマートキーには「キー閉じ込み防止機能」が備わっているため、車内にキーを入れたまま施錠してしまう「車内のキー閉じ込み」はないと思われていますが、現在もロードサービスの出動理由の上位に「車内のキー閉じ込み」に入っているそうです。



キーを持ってさえいれば、ドアの施錠・解錠ができ、ボタンを押すだけでエンジンの始動・停止も出来て便利ですよね。



スマートキーには、閉じ込み防止機能が備わっており、キーが車内にあると判断されるとロックされなかったり、警告音でキーが車内にあることを知らせてくれます。そのため、キーを車内に残したまま施錠されてしまう、いわゆるインキーは発生しにくいはずなのですが、今もロードサービスの救助依頼は多いそうです。

なぜなのでしょう？

メーカーや車種によっては、荷室にキーがある場合、閉じ込み防止の警告音がならないこともあるようです。荷室のバックドアだけを開けて積み下ろしをした際、うっかりキーを荷室に置いたまま「ロック」ボタンを押してしまい、キー閉じ込みになってしまう。

また、スマートキーには盗難防止の仕組みとして、解錠してから一定時間内にドアを開けないと自動的に全ドアが施錠されてしまう「オートロック機能」も備わっています。スマートキーは、電池残量が低下したり、電波障害などによって誤作動することもあります。誤作動でキーが本来の機能を果たせなくなった状態で、オートロック機能が作動してしまえば、キー閉じ込みになってしまう可能性もあります。



電池残量が十分にあって、かばんの奥底など電波が検知されにくい場所にキーがあると、キーが車内に残されていることを判断出来ずキー閉じ込みになってしまうこともあるようです。

この「うっかりロック」を予防するには、たとえ荷物の出し入れ程度であっても、キーを携帯して乗り降りするのが、もっとも効果的な「対策」になります。そして電池切れにならないよう電池交換もしましょう。

